
河童【「夏の灼熱ギャグ小説対決企画2011」参加作品】

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

河童【「夏の灼熱ギャグ小説対決企画2011」参加作品】

【Nコード】

N0632W

【作者名】

ごほんライス

【あらすじ】

「夏の灼熱ギャグ小説対決企画2011」参加作品です。参加者は、ごほんライス、希羽、月影舞月。飛び入り参戦者は、大輔華子、ハセガワハルカ。審査委員は、聖騎士、美希マコト。（敬称略）

（前書き）

企画概要については、活動報告を参照ください。

河童の太郎は、川で泳いでいた。夏の盛り。暑いけど、川の中は気持ちがいい。誰もいないので、気兼ねない。バタフライをやったり背泳ぎをやったりクロールをやったり平泳ぎをやったり犬かきをやったり、楽しんでいた。

しかし、そのうち、遠くの川岸に、人間の小学生たちがわらわらやって来た。太郎はやべと思う。見つかったらいじめられる。人間の子供は暴力的らしい。

太郎はあわてて、子供たちとは逆の川岸を目指して泳ぐ。

太郎は、川岸に上ると、草むらの陰に隠れて、休憩した。

人間の子供たちは川できゃっきゃきゃつきゃつとたわむれている。水をかけあったり、泳いだりもぐったり。

太郎は、その楽しそうな声を聞きながら、寂しくなってくる。太郎には友達がいらないのだ。河童が太郎一人というわけではなく、河童国というのはあるのだが、太郎は不登校気味だったのだ。

太郎は仲間に入れてもらおうかなと少し思う。

草むらの陰から、じつと小学生集団を見つめていた。

「でもいじめられたらやだしなあ。皿とか割られたら死んじゃう」ちびっこたちは、太郎がいるのとは逆の川岸に上がり、川原で、バーベキューをやり始めた。

太郎は耳がいい。あはははと楽しそうな声が太郎の耳にまで届く。太郎は鼻がいい。肉の、香ばしい、いい匂いがして、仲間に入れてもらいたいなあと思い、お腹がぐうと鳴った。

太郎は本当に本当に悔しかった。

では、なぜ太郎は不登校なのか。

それはずばり、いじめである。

河童の世界でもいじめはある。

2010年度、147人の児童河童が自殺した。

かくいう、太郎も自殺がしたくてしたくてたまらなかった。

それもそのはず。葬式ごっこを太郎はクラスでやられていた。

机の上に、花のさした花瓶を置かれたり、クラス全員が、色紙に「天国でもがんばってね」「今までありがとう」とか書いて太郎に渡したのだ。

昔は河童の世界にもガキ大将というのはいた。しかし、河童の世界は時が経つにつれ、平等な社会になってきた。すると、ガキ大将は何かすると、すぐに叩かれるので、いつの間にか消滅していき、代わりにクラス全員が、弱い児童河童一人を集中的にいじめるようになった。

ガキ大将の時代は、いじめられっ子同士、慰め合って生きてきた。しかし、集団にいじめられたら、弱者は自殺をするより他に方法がない。

そんなわけで太郎は不登校になっているのである。河童の先生は、「休んでばかりいると、社会に出たとき困るぞ」と言うが、登校したらまた集団いじめにあって、社会人河童になる前に、自殺してしまう。

太郎は、目がいい。遠くから人間の小学生たちを眺め、ひとり、すぐくかわいい女の子を見つけた。ツインテールで目が大きなかわいい女の子である。胸も小学生にしては少し大きめだ。

「ああ。あの子と遊べたら楽しいだろうなあ……」

しかし、以前、川で遊んでいた、親戚の河童の子が、人間の子供に捕まり、ボッコボコにされて殺されたのを知っている。人間にはすごく暴力的なところがある。太郎は、それが怖い。確かに人間と河童は容姿がだいぶ違うので、そういうことにもなる。おそらく、河童は身体がぬるぬるしてるので、人間には気持ちが悪いのかもしれない。

しかし、太郎は、あの女の子は違うと思う。直感だ。あの子は優しいに違いない。髪の色でわかる。河童のおじさんに聞いたら、髪の毛の黒い人間はいい人間らしい。ただ、あの子の周りに茶色の髪をし

た男子や女子がいる。茶色の髪をした人間は悪い人間らしい。親戚の子供は茶髪の人間に殺された。

草の陰に隠れながら、太郎はずっとずっと、ツインテールの女の子を眺めていた。

しばらくすると、バーベキューを楽しんでいた小学生たちのところに、身体の大きな中学生が数人やってきた。

中学生たちは、鉄板に乗った肉やとうもろこし、その他お菓子を勝手に食べたり、ジュースを勝手に飲んだり、ひどいことには、小学生の女の子たちを捕まえて胸を触ったりお尻を触ったり、男子たちが助けようとしたら、ぶん殴り、蹴飛ばし、さらには鉄板をひっくり返したりして、川原では、ひどいことになってきた。

「ああ。何てことだ」

太郎は、怒りに満ちてきた。女の子を。女の子を助けなくちゃいけない。そう思う。ぶるぶる震えた。

でも、怖い。中学生たちは身体が大きいし、何人かいる。

女の子が中学生たちに服を脱がされようとして、わんわん泣いている。

「許さん！……」

太郎は、ごちゃごちゃ考えるのを止め、川にどぶんと飛び込んだ。すごいスピードで泳ぐ。バタフライだ。見事なバタフライ。鬼気迫る。河童なので泳ぎはお手のもの。すごいスピード。女の子を助けないその一心。

あつという間に、川原にたどり着いた。

「おい！ お前ら！ その子を離せ！」

太郎は中学生たちに向かって叫んだ。

中学生の一人が、うへへへと笑いながら、太郎のぬるぬるした腹を殴った。

「ぐがつつ」

太郎は腹を押さえてひざまずく。

「い、いちゃい……」

中学生は、太郎の顔を思い切り蹴飛ばし、太郎の意識はそこで途絶えた。

ツインテールの女の子は、そのまま、中学生たちに犯された。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0632w/>

河童【「夏の灼熱ギャグ小説対決企画2011」参加作品】

2011年8月24日03時25分発行